

9月、10月は「仲間を増やすぞ」秋の拡大月間です。各支部工夫をして楽しく行動しています。城北ブロックでは9月20日「さわやかボウリング交流会（仮）」を予定。仲間と一緒に交流しながら新たな仲間をふやそう。

うで自慢

東京土建青年部

発行責任者 三浦康廣
 住所・新宿区北新宿1-8-16
 TEL・03-5332-3971
 FAX・03-5332-3972
 青年部のブログ
 「青年部のささやき®」
<http://doken-s.cocolog-nifty.com/blog/>

2014年青年部復興支援in会津若松

笑顔と元気の大交流



大盛況だった復興支援住宅デー。



会長に避難の話を聞いた



仮設住宅の見学を行なった



津波被害がそのまま残る富岡駅周辺

東日本大震災から3年半が経過した9月13日、14日、青年部は福島県会津若松扇町1号公園仮設住宅で復興支援住宅デーを5支部（世田谷、調布、府中国立、小平、東村山）26人が参加し行ないました。

1日目は「生業を返せ・福島原発訴訟団」の菅家さんにガイドをお願いし、沿岸部の津波被害の跡が残る富岡駅、黒い袋（除染のゴミ）が山積みされた畑など見学しました。菅家さんは「除染、ゴミ処理、被災者の生活など原発事故はまだ終わっていない。福島のは入れられなと離縁した人もいる。こんな状況で原発再稼働は絶対にありえない」と話してくれました。

その後、会津若松仮設住宅へ移動。仮設住宅の塚本会長から、毛布1枚で3人が暖をとった1次避難、避難先のホテルで他の客から白い目で見られた3次避難などの経験をうかがい、仮設住宅の中も見学しました。

**終わっていない
原発事故被害**



焼きそば・やきとり・



多くの仲間であたりやりたい



大判焼き・木工教室



若い人から元気もらった

大盛況になりました。終了後、塚本会長は「最近では支援もなくなりました。若いみなさんがきてくれて元気をもらえた」と笑顔。三浦青年部長は「今後とも多くの仲間に参加してもらい福島の状態を感じてほしい」と感想があり、参加いただいた方も青年部員も笑顔になった復興支援住宅デーになりました。

2日目は10時から復興支援住宅デーを開始。住宅デーでは、木工教室（イス、本棚、銅版）、やきそば、やきとり、大判焼き、フランクフルト、かき氷、ポップコーンを実施。事前にチラシを全戸配布、掲示板告知をやっていただいたおかげで、スタートから